

平成 30 年度 第 5 回東大阪市地域福祉専門分科会、地域福祉計画策定懇話会
議事録

開催日時	平成 31 年 2 月 6 日（水） 午後 2 時 00 分～午後 3 時 30 分
開催場所	総合庁舎 1 8 階 大会議室
出席者 （委員）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域福祉専門分科会 新崎委員、江浦委員、遠藤委員、滝川委員、永見委員、松本委員、森田委員 ・ 地域福祉策定懇話会 梅津委員、小川委員、杉本委員、地村委員、西野要委員、西野弘哲委員 村井委員、森田委員、米田委員
欠席者	義之委員、高橋委員、西島委員、松浦委員、瓜生委員、西野要委員
事務局	山内福祉部次長、和田福祉企画課長、井坂生活福祉室次長、森障害施策推進課長、異高齢介護課長、福永地域包括ケア推進課長、子ども家庭課 宮脇主任、中崎社会福祉協議会常務理事、竹林社会福祉協議会事務局次長、福祉企画課 伊藤主任、入江主任、井上係員
議題	<ul style="list-style-type: none"> (1) 第 5 期地域福祉計画について (2) その他
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 ・ 委員名簿 ・ 第 5 期地域福祉計画（案） ・ 東大阪市第 5 期地域福祉計画素案パブリックコメントで 寄せられた意見と市の考え方 ・ 第 5 期地域福祉計画素案 パブリックコメント実施以降の主な変更点（2/6 時点）

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
会長	<p>○開会のあいさつ</p> <p>今日は今、事務局の方もご報告いただきましたように、最終の会議ということですので、この案を元に皆さん方で熱心なご議論をいただければと思います。</p> <p>前は資料の主な事業、事業概要、今後の方向がお示しできないといったところのお話でした。今回、それぞれの施策、概要、方向性について網羅したものをお示ししていますので、お気付きのところ、修正すべきところをご議論いただければと思います。</p> <p>それではまずパブリックコメントも届いているようですので、事務局からパブリックコメント、最終案の前回からの主な変更点についてご報告いただこうと思います。よろしくをお願いします。</p>
事務局	<p>パブリックコメントの結果について説明</p>
会長	<p>パブリックコメントを読ませていただきますと、障害のある方々のところで、自分たちの地域福祉計画の中にも当事者の方々の意見、当事者参加を望む声が大きかったということ。それを取り入れていただいて修正、加筆いただいたということですので。</p> <p>それではいよいよ今回が最終ということですので、お気付きの点、こういった点はどうだろうかという質疑応答、ご意見をいただければと思います。どなたからでも結構です。お聞かせください。</p> <p>今回の計画策定の特徴としては、おとし、社会福祉法の改正ということで、地域福祉課題というところ、地域生活課題というところも変わったり、それから教育という問題が加えられたり、就労というところが加えられました。それから地域福祉計画が上位計画になり、さまざまな制度・施策を、いわば横断的に説明していくということで、前回の計画に比べると比較的横断型という、まんべんなく情報を網羅しているというところが特徴だと思います。皆さん、それぞれ担当するところだけでも結構ですので、目を通していただいて、ご意見、感想をお伝えいただければと思います。</p> <p>幅広い内容ですので、すぐにご意見をいただくことは難しいと思いますので、私の所感にふれながら、大きな部分についてお話をさせていただいて、その後、最終回ということですので、各委員ひと言ずつでも今回の感想についてご提言いただければと思います。そういう心持ちでお聞きいただければと思います。</p> <p>前回の第4期からの大きな特徴としては、やはり前回は社会福祉協議会が地域福祉を推進するというところで、49ページの表にあるように、市町村での取り組みというところ</p>

	<p>で、今まで高齢、障害、子どもといった各領域の中でネットワークができていたというところを第4期の5年間で、いわゆる地域福祉ネットワーク推進会議ということをもって、専門職レベルでは「我が事・丸ごと」、地域共生社会の丸ごと、いわゆる包括的に行政、専門職の方々が定期的に東、中、西の3つのところで継続的にお話をするという仕組みをつくってきたというところが大きな変化だったのではないかと思います。</p> <p>専門職のネットワークの要としてコミュニティソーシャルワーカー、コミュニティワーカーという地域活動を行うソーシャルワーカーが関わってきていたというところは最も大きな変化の部分ではないかと思います。</p> <p>前回、第4期の時には市域でのネットワーク推進会議はありましたが、それが東・中・西と別れてきたというのも一つの特徴かなと思います。</p> <p>それから高齢者の場合は地域包括支援センターの中に第2層の生活支援コーディネーターを置かれて、高齢者分野については、各地域包括支援センターが積極的に地域の受け皿をつくっていくという、一応、かたちがスタートしてきたのが2年前でしたでしょうか。</p>
事務局	<p>平成28年10月からです。</p>
会長	<p>2年前から行われてきたということです。障害児関係については、レピラ、基幹型相談支援センターができ、そして7つのリージョンで委託相談が始まって、比較的地域に近いところでの障害を持つ方の相談支援がスタートしたのが去年でした。</p> <p>そのような状況の中で地域に密着したということで、相談件数が上がってきて、そういった対応もとても大変であるということも言われています。</p> <p>それから児童についても、虐待や地域の中での機運としては、子どもたちの居場所や子ども食堂というかたちでインフォーマルな方々が子どもたちの貧困であったり、子どもたちの生活を支援していこうという動きが今、動き出している。まさにこの2、3年というのは、大きな地域福祉の動きがあったところではないかと思います。</p> <p>もう少し言いますと、5期の計画は今回、地域福祉計画が最終を迎えますが、今日が終わりではなく、実は計画ができたところがスタートとして5年間で計画がどこまで具体的になるだろうか。簡単にいうと、絵に描いた餅で終わらないかということをチェックしていただく、監視していただくということもそれぞれ皆さんの役目としてお願いしたいことと考えています。</p> <p>51 ページ1. 地域福祉意識の向上、これは第4期の計画にもありましたが、アンケートをとると、やはり市民の方の福祉離れが深刻だということも見えてきました。そういった状況の中で、ではどういったかたちでこれからそれをやっていくのかというご提案、ご苦言をいただくというかたちでこれから進めていきたいと思います。</p> <p>それから先ほど事務局からもご報告いただきましたが、去年は6月18日の大阪北部地</p>

	<p>震や9月4日の台風21号というところで、本当に災害が身近に実感でき、また私たちの問題として地域福祉を考える時の一つの大きな課題であり、逆にいうと、そういったテーマが地域福祉意識を向上させる一つのきっかけになるという可能性についても去年の台風、地震以降議論されてきたところではないかと思います。</p> <p>おしなべてさまざまな計画が網羅されているという中で、皆さん方自身、どういったところにコメントすればいいかというところが分かりづらいかと思いますが、何かご感想なりご意見いただければと思います。いかがでしょうか。</p>
委員	<p>97ページ、③虐待への対応の強化について、ここで障害者虐待防止と高齢者虐待防止の事業概要が説明されています。障害者の虐待も高齢者の虐待もほぼ同じスキームの中で対応されていると思いますが、事業概要の説明を高齢者虐待のほうをもう少し簡潔にしたほうが良いと思います。</p>
会長	<p>事務局からご回答ありますか。こういう理由でこのように書きましたということでも結構です。</p>
事務局	<p>地域包括ケア推進課です。今、ご指摘いただいたように、確かに障害施策推進課の書き方のほうが簡潔に分かりやすくまとめられているように思いますので、高齢者のほうの表現を分かりやすく修正させていただきます。</p>
会長	<p>障害者虐待、高齢者虐待の特徴は施設事業者も含めてというところですので、書き方を合わせていただくほうが良いと思います。庁内でご相談いただき、できる範囲で変更していただけたらと思います。</p>
委員	<p>私は東大阪ボランティア連絡会の会長を仰せつかっています。2年単位で交代しているのですが、30年ぐらい前は40サークルほどボランティア連絡会に登録されていて、東大阪市のふれあい祭りにも出店して、その利益でかなりお金をためているということもあったのですが、現在は16サークルしか登録されておらず、役員を選ぶのにもかなり苦労している状況です。</p> <p>来年、新しい役員が選ばれるのですが、立候補者がいないかとか、あるいは推薦者がいないかというかたちでなかなかやっていただける方がおられません。各ボランティア団体についても高齢化が始まっています。また、東大阪の社会福祉協議会のほうでやらせていただいているわけですが、会場の運営が変わって、火曜日か金曜日しか使えないという状況になっています。私たち役員の中にはボランティア連絡会に入っているメリットは何かというようなことを言う人もいます。人と人のお付き合いで勉強ができるということぐらいなのか、ちょっとしたことがボランティア活動なのだよということ</p>

<p>会長</p>	<p>を教えられてはいますが。</p> <p>私も趣味から入ったボランティアサークルです。ですからボランティアに対して初め何も意識はなくて、皆さんのかなりのボランティア精神に基づいた意見を受けてどうしたらいいのかなど。私もどちらかというところと一般市民的な人たちでしか思っていないのが現状です。</p> <p>今、ボランティアの役員をしていて思っているのは災害に関してです。災害時のボランティアセンターが社協にもできたということで、今度、シミュレーションするから集まってくれと言われていたのですが、どこからどのように災害の連絡が来るのか分かりません。自治会に連絡が入るのか、あるいは小学校から来るのか、社協から来るのか、ボラ連から入ってくるのか分かりません。交通の便の問題があって、社協に集まってくださいと言われても行けませんし、どうしたらいいのかなというところが本当に分からない状態です。</p> <p>ですから、どちらかというところ皆さんの意見を聞かせていただきたいと思っています。素人として、一般市民として本当に低レベルの知識しかないのが現状です。</p> <p>そういう意味でいうと、市民活動やボランティア活動の活性化というところについては地域福祉計画だけでなく、今、社協で策定中の地域福祉活動計画は住民の方々の行動計画という中で、しっかりとその辺のところをどうしていくかということについて話し合っていく必要があると思います。またその辺のところでご議論させていただければと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>基幹型地域包括支援センターですが、会長が先ほどおっしゃっていた地域福祉ネットワーク、49 ページの中で、地域包括支援センターの大事な役目がネットワークの中で必要になってくるかなと思っています。</p> <p>東大阪市は場所によっては高齢化率が 30 パーセントのところもあって、高齢者の支援をしていく部署としては大切なところですが、高齢者が高齢者を支えていただかないといけないというところで、生活支援コーディネーターが動いています。高齢者支援等会議を平成 28 年度 10 月からさせていただいていますが、なかなか会議のあり方が分からないという状況です。</p> <p>先ほどありましたように、地域で何が必要かとなった場合、災害の話になると、意見がたくさん出てきます。お話をさせていただいて、地域包括が今、話し合いできるような方向になって、地域包括がもっと横のつながりを付けていただく。</p> <p>先ほど委員がおっしゃったように、今は高齢者虐待だけではなく、児童虐待の問題を抱えている家族世帯もあります。高齢者だけではなく、児童のほうも含めて横の連携をして、その方たちを支えられるような支援をしていかなければならないなということで、地域包括は常に苦悩している状況です。</p>

<p>会長</p>	<p>先ほどもお話ししましたように、地域共生社会、共生というところかというと、従来の行政の縦割りを排してとまでは言えないかも知れませんが、横につなげるような会議であったり、連携の必要性というところについてやはりこれから5年間、より進めていく必要があるのではないかというご意見だったと思います。</p> <p>そういう意味で、この計画を具体的なところに広げて、5年間で充実させていけたらいいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>何を言おうかなとは思ったのですが、例えば、今回、パブリックコメントの中でも防災に関して、すぐに避難することが難しい方や避難所生活が難しい方についての意見がありました。それはこの会議の中でも何回か議論になったと思います。今回、パブリックコメントを踏まえて74ページの真ん中あたりに「当事者を交えた訓練を実施するなど」という言葉を書き添えていただけたことはありがたいと思います。</p> <p>ただ、それを踏まえてその後の施策の展開であるとか、今後、どのように行政として進めていくのかという部分には当事者を交えた文言は結局入っていません。第5期の計画期間の中で一体、どのようなところで当事者が参画していけるような取り組みをしていただけるのか、現時点では正直、分からないなと思っています。</p> <p>第5期が進んでいく中で、6期に向けた議論をすることになった時に第5期の計画を踏まえて当事者がたくさん参画できるようになってよかったねと言えるような文言になればいいなと思っています。</p> <p>83ページ、福祉環境の整備の現状と課題についてですが、今は府のまちづくり条例とかバリアフリー法に基づいて建物が建てられているわけですが、ただ、その基準で建物を建てられていても、僕たちには利用しづらいという現状があるのも事実です。その2段落目の最後に一層のバリアフリー化に務めてもらうために、施設の設置業者や管理者と市町村で事前協議を義務付けているとありますが、こういうことが義務付けられて、新しく建てられる公共施設がいろいろな方にとって配慮された建物になっているのであればそれでいいのですが、既にできあがっているものは、私たちにとって、どうしてここがもうちょっとこうならなかったのかなということが本当に多いわけです。</p> <p>そうなった時に事前協議が義務付けられていても、そこに肝心の当事者の声が反映されていない中で事前協議が進められてしまって、結局、僕たちにとっては困ってしまうというところがあります。</p> <p>できれば事前協議をするような段階で、きちんと当事者の声を拾ってもらったことをしっかり入れてほしいなと思っています。</p> <p>今回、パブリックコメントで、今回の第5期には文章としては入らないけれども、各分野で検討するという回答がいくつかあったと思います。5期には入らないとしても、各分野の検討の場に第5期のパブリックコメントを求めた時に、こういう意見が出てい</p>

<p>会長</p>	<p>たということはちゃんと引き継いでいただけたらありがたいと思います。</p> <p>地域福祉という時には、高齢者施策や一般市民の方々のところに視点がいきがちです。今はすでにあるところはどうですかというかたちになりますが、今の委員のご意見は参画ですね。企画とか計画の時に当事者の方に参加してもらい、出席してもらってご意見を聞くということです。後から手直しするのはとても大変なので、最初から当事者の方に参画してもらうことが必要ではないかということ。</p> <p>それから何回もお話ししていますが、地域福祉計画は全体のベースになるので、網羅するという傾向が強いのですが、障害者福祉法や老人福祉計画といった各計画のところ具体的に当事者の方々の参画を検討していただくというかたちのご提言だったと思います。ありがとうございました。</p>
<p>委員</p>	<p>私が計画策定の中で印象が強かったのは地域懇談会の時になります。43 ページ 5. 東大阪市の地域福祉をめぐる主な課題が載っていますが、これは地域懇談会からまとめられた課題であろうと思います。本当にたくさんのご意見をいただき、その中でも多かった、気持ちが強かったのは、地域共生社会の実現というところです。強く進めているので当然ではございますが、それに対して 2 番目にあります、住民の交流の場づくり、居場所づくりについては、お子さんから高齢者、障害のある方々まで、さまざまな方にとって共通の願いというかたちで強くあったのを覚えています。</p> <p>また、先ほどからお話に出ています防災に関することも 6 月の大阪北部地震から本当にたくさんの災害があり、皆さんにも今回、ものすごく防災意識が高まったことと思います。東大阪市でも第一次避難所、すべて開設されたのが市政 50 年で初めてだということで、皆さん、本当に驚いておられました。東大阪でも亡くなられた方はおられませんでしたが、多くの被害がありました。</p> <p>東大阪市の地域福祉計画はこちらになりますが、先ほどから出ています地域福祉活動計画としてこれから策定していきたいと思いますので、その中で皆さんのご意見をおうかがいさせていただきながら進めていきたいと思っています。</p> <p>先ほど防災という話が出ましたが、校区福祉委員会という団体は自主的に福祉課題に取り組んでいただいている住民主体の団体です。毎年研修会をしていますが、今年は災害に関する研修を実施しました。</p> <p>その時には同志社大学の立木先生にお越しいただいてお話いただきました。事例の中で、西日本豪雨でお亡くなりになった知的障害のある母子家庭のお話がありました。制度で専門職の方がたくさん関わっておられた結果、母子家庭で、お母さんが知的障害があったのですが、不自由なく暮らすことができるというコメントをおっしゃっておられたのですが、逆にそのせいで地域の方との接点がなかったということもおっしゃっていました。制度につなぐことによって福祉の無関心化が始まってしまわないかとい</p>

<p>会長</p>	<p>うことの一つの事例だと思います。福祉教育の充実や福祉意識の醸成というところについては、社会福祉協議会の地域福祉活動計画でもより強く進めていければと考えています。</p> <p>私も2回参加させていただきました。72ページをご覧ください。いわゆる地域福祉ネットワーク推進会議ということで、これは今回の地域懇談会の時の写真ではないかと思っています。前はサーベイリサーチセンターの方に会議のファシリテーションをしていただきましたが、5年後の今回は、3回の地域福祉懇談会すべてでコミュニティソーシャルワーカーや地域担当の職員がファシリテーションをして、住民との顔の見える関係をつなげていくというかたちで、少しずつではありますが、地域との公助と近助のつながりというところが進んできたのではないかなと思います。それをビジュアルで見ているのがこの図ではないかと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>私が知っている活動の面からいいますと、やはり外国籍住民との共生に向けた環境整備を一番にお願いしたいと思っています。昨年、外国人労働者の受け入れが国のほうでまとまりましたので、今後さらに外国人労働者が増えてくるという状況になると思います。</p> <p>ただ、東大阪にどれぐらい入ってこられるのかが見えないところがありますが、日本語に困る方、情報が分からない方が今以上に増えるのではないかと考えています。それに際して、いろいろな方法で情報を伝えていただくことが本当に必要だと思います。さらに日本語が分からないというだけで、皆さん大人なんですね。その人たちは国の文化は違うけれども、できることはあるんです。だからそういうことを引き出せるようにして、うまく地域の中にとけ込んでいただくのがいいと思います。</p> <p>残念ながら、リージョンセンターで会合があるとかいった情報は外国人の方には伝わっていませんので、会議に出るとか参画するとかいったことがまずできません。ですから、そういったことを少しでも活かせるような仕組みづくりは必要かと思っています。</p> <p>また、災害時の情報にしても、外国の方が見て、どのように動いたらいいといった情報が伝わるような、優しい日本語表現を使うといった工夫も必要ではないかと思っています。</p>
<p>会長</p>	<p>多文化理解とか、情報収集にインターネットが使われる方も多いと思いますが、情報の多言語化といったことも計画の中に入れていただいているのでしょうか。前にもそういった議論があったような気がしたのですが。</p>
<p>事務局</p>	<p>今、委員からご説明がありました96ページ、②外国籍住民との共生に向けた環境整備の中に、日本語の不自由な方が適切な支援を受けられるように取り組みますということ</p>

委員	<p>で、具体的な事業としては、例えば、文化国際課の国際情報プラザ事業の中で多言語による情報発信を行っています。こちらの項目の趣旨に基づいて、市としてもそういったことを進めていきますという中身になっています。</p> <p>もう一つ、子育てについて、やはり外国人の子どもさんもばらばらとおられて、人数的には多くないのですが、子どもたちの日本語の問題があります。友だちと話ができるから日本語が分かっていると思いがちなのですが、やはり生活言語と学習言語は違うんですね。教科書が分からなくて、だんだん勉強についていけなくなってしまうということがあります。そうすると教室の中で何を言っているか分からない。ただ字面を眺めているだけとなってしまって、本当に分かっていない。どんどん勉強についていけなくなる。学校に行くのが嫌になるという方向に進むことがあります。</p> <p>ですからそういった外国籍の方の学習支援も一つ入れていただくと、親のほうに行つて、それが地域にも行くのではないかと思います。</p>
会長	<p>活動計画でもより具体的に考えていかないといけない部分だと思います。お子さんは学校で日本語を習い、お父さんはお仕事で日本語を使うけれども、お母さんの日本語に問題があるというケースもあるということも聞きます。母親学級などで日本語を学習するという取り組みをしている地域もあるようです。それを東大阪市でも取り入れていくという検討も必要かと思います。</p>
委員	<p>私は犯罪や非行の防止、安全や安心なまちで暮らせるという観点からいろいろ考えさせていただきました。第4期の地域福祉計画には、矯正施設を出てきた人の社会復帰と地域生活への定着を支援していく必要がありますと書かれています。必要があるとは言うけれども、するとは書いていません。必要があるということで終わっています。第4期福祉計画にはそのように書いてある。それでは不足だなという観点からいろいろお話しさせていただきました。</p> <p>われわれが対策をすればこんなふうになるんだよという事例を、先日、布施警察署の署長がお話しされました。布施警察署管内のひったくり事件は、平成13年には766件あった。平成28年にはなんと25件に減ったというわけです。その原因の一つは住民が自転車の前かごに袋をかけるとか、絶対に左側にバックを持つといった運動をしたこと、もう一つは防犯カメラです。この二つでこれだけ減ったわけです。これは、何か対策をすれば犯罪は減るという大きな証拠だということを署長の講演から感じました。そういう意味で、犯罪や非行防止の活動が非常にしやすくなったと感謝しています。</p> <p>3点ありますが、一つは地域福祉ネットワークというところで、地域住民や校区福祉委員会、民生委員や自治会、NPO法人などの中に保護司会も入れていただきました。それが地域を支えるネットワークの一つになって非常に活動しやすくなりました。</p>

<p>会長</p>	<p>それから2点目は再犯防止という観点から、刑務所を出てきた人を就職させなければいけないということです。食べていかなければいけないわけですから。そういうことをしましよと書いていただいて活動しやすくなりました。</p> <p>それからもう一つは犯罪や非行のないまちづくりということで、みんなが意識を持ちましようということです。社会を明るくする運動ということで、関係機関や市役所が広報活動や啓発活動をやりましよう、やっていますよということを書いていただきました。</p> <p>こういう3つの新しいことが入ってきたということで、安全、安心して暮らせるまちということで非常に前向きに取り組めるようになったのではないかとということで感謝しています。</p> <p>総括でふれなければいけないことですが、罪を犯すことは許されることではありませんが、犯罪を防止するために地域ができることということで、委員が公募委員になられた思いが第5期ではかなり積極的に書き加えられているという評価をいただいたと思います。</p> <p>5年前は再犯防止、定着支援の必要性は言われていましたが、具体的にどうしていくかということまで話が及んでおらず、それをやりますということが書き切れなかったということが思い出されました。</p> <p>そういった意味で、この5年間でそういう取り組みが少しずつ進んできて、今回は実際に具体的に3つの点でご評価いただいたということは本当にありがとうございます。公募委員として入っていただいて本当によかったと思います。ありがとうございます。</p>
<p>委員</p>	<p>CSW、COWの事業については、各論に担っていくべき部分を多数掲載していただいています。CSW、COWは個別支援から地域のネットワークづくりを構築していくという役割があります。そういったことから、特に平成24年から開催しています会議で、分野を超えた専門機関の顔の見える関係づくりを目的としたネットワーク推進会議があります。こちらのほうもますます今後、重要になってくるなという思いがあります。</p> <p>タスクゴールだけではなく、リレーションシップゴールに重点を置いて目指して、充実した会議に今後していきたいと改めて感じています。</p>
<p>会長</p>	<p>タスクゴールというのは、この計画の大きな目標としての、いわば到達目標ですが、リレーションシップゴールはそういった取り組みをすることによって関係機関や住民の方々のつながりづくりということをつくっていくという、そういうこともしてきたというご発表だったかと思います。</p> <p>私が会長をやらせていただいて一つだけ残念なのは、CSWの増員が書き切れなかった点です。それについては僕も気が弱かったなと思います。今、本当にCSWに対する相談件数が増えてきています。複合多問題化していて、今の人数では十分に対応しづ</p>

委員	<p>らいと思います。その辺は計画には書いていませんが、今後の検討課題として私からもお伝えしていけたらいいかなと思っています。</p> <p>64 ページ、計画には母子福祉推進委員による相談対応として事業を挙げていただいています。母子会自体が東大阪市全体に根付いていないという問題があります。</p> <p>各地域に理事がいて推進員もいるのですが、推進員の数も少なく、なかなか手がない状況です。年齢も 75 歳までとなっています。市としては年に一度は推進員の勉強会を実施するというので、去年も研修をしていただきました。仕事としてはいろいろなことを聞きますが、実際、軌道に乗っていないのが事実です。</p> <p>私がお願いしたいのは、各校区にある福祉委員会の中にできれば母子寡婦福祉会を入れていただきたいということです。入っているところと入っていないところがあります。母子会という名前を聞いたことがない人もおられますので、それでは計画に書いていただいても推進員の活動ができませんので、できれば校区福祉委員会に母子寡婦福祉会を入れていただけるよう市のほうにお願いします。</p> <p>子ども食堂や学習支援という事業は母子会にとっては非常にありがたいです。計画に入れていただいて、実行していただいているのですが、親の世話をする推進員のほうも力を付けて活発に動きたいと思いますので、できればそのことをお願いさせていただけたらと思います。</p>
会長	<p>この点については、事務局いかがでしょうか。</p>
委員	<p>母子寡婦福祉会のお話については、校区福祉委員会、連合会のほうにお伝えしたいと思います。ただ、校区福祉委員会は住民が主体的に組織しているグループであって、例えば、例示の中ではさまざまな方々にご参画いただけますよということでお声掛けさせていただいていますが、45 校区ばらばらの組織形態になっています。地域住民の方が自主的につくられている組織のため、お願いはできますが、強制的なことができません。お話としてご意向をお持ちいただいているというお話だけはさせていただきたいと思います。</p>
会長	<p>行政がこうしなさいというかたちではできないということですね。</p>
委員	<p>組織上できません。</p>
会長	<p>そういうことをご理解いただけるようなことについて、社協の担当部局からお願いするというかたちで考えていただくということでもよろしいでしょうか。</p>

委員	<p>この福祉計画策定懇話会に出席させていただいて、私は普段知的障害を持つ人と関わって、その方たちの福祉サービスをいかに充実させられるか、地域生活がどのようにうまく進んでいくかということを支援しているのですが、やはりご本人もそうですし、親御さんたちの高齢化に伴った複合的な課題がこの数年は本当に多くあります。先日も2人で暮らしておられた方が認知症になられて、夜中に外を歩いていたということが割と頻繁に起こるようになりました。</p> <p>その中で、まずはご本人の生活を安定させるという目標があるのですが、一方で親御さんがどのようになっていくかということがとても気に掛かるところです。</p> <p>今までであれば、どうしようとなっていたのが、じゃあ、包括さんに連絡しようというふうに、推進ネットワーク会議などでいろんな方たちと出会う、そういったハードルがかなり低くなったなということを感じています。</p> <p>ですからそれぞれ使うサービスは違ってきて、もしかしたら暮らす場所も変わってくるかもしれませんが、やっぱり親子の絆が切れないようにするのが、そういったネットワークがきちんと整っていることが大事かなと感じました。</p> <p>それからもう一つ、ボランティアに関わる人が少なくなってきたということがあります。学校教育での福祉の理解を進める必要があると思います。私たちが小学校などに当事者の方たちと一緒に子どもたち向けの講演会に行ったり、作業所に行って体験してもらったりということで、年に何回か学校と一緒に活動しています。営業活動というのではありませんが、こういうことをしませんかと市にチラシを持っていくこともあったりして、学校との連携はなかなか難しいなと感じています。</p> <p>確かに啓発はまだまだ必要ですし、こういう活動が大切だと思っているのですが、前の会議でも発言させていただきましたが、特別な時だけではなく、普段からクラスの中に何人か障害を持った子どもがいるとか、外国人の子どもさんがいるとか、いろんな人がいるのが当たり前だとなって、あえて啓発活動をする必要がないという状態になるのが理想だなと思いました。</p>
会長	<p>私はもともと肢体不自由施設で相談員、ソーシャルワーカーをしていましたので、今、委員がおっしゃったことはとてもよく分かります。</p> <p>障害のある子どもさんや保護者の方々は、その子どもさんだけではなく、お母さんの介護の問題など複合多問題に陥りやすいというところで、分野を縦割りにするのではなく、横断的、横につながるようなネットワークづくりを行政の方にぜひぜひお願いしたいところです。</p> <p>この計画ができたから終わりではなく、この計画を策定する時に情報共有しただけではなく、今後、そういった施策と一緒に検討していただけるような行政の内部での会議や協議体を強化していただけたらありがたいと思います。</p> <p>それから学校との関係ということであると、私も福祉教育ということで、学校の先生</p>

<p>委員</p>	<p>方とのお話などでもできるだけ当事者にゲスト講師を務めてもらうなどのお話もしているのですが、またそこは社協の福祉教育の担当職員の方と施設連絡会のところで、いわゆる自立支援協議会で福祉教育を学校でどのように進めていくかというところの検討なども始めていかれたらいいなと思います。私も自立支援協議会に関わらせていただいていますので、そういったことを地域福祉にも障害福祉のほうにも提案していこうと思いますので、よろしくをお願いします。</p> <p>45 ページの基本目標の(2)ひろげよう！福祉活動とネットワークとまとめていただいています、向こう三軒両隣と書いていただきましたが、これはすごくいい言葉だと思っています。というのは、向こう三軒両隣というのは、班長さんであり、またそれがちょっと広がりますと組長さんであり、私たちの地域ではとても組長さんというのは重要なポストだということでもとても大切に、いつも話し合う中心になっていただいています。</p> <p>災害時も必ずご近所の方と一緒に避難場所に行きましょうと。ご家族とはいつも連絡を取れるような状況でということで、いつもご近所のつながりを大切に。例えば、ゴミ出しもそうですし、すべて福祉の活動がそこから始まっているのではないかなと思っています。だからとてもいい言葉だと思います。口ではすぐに向こう三軒両隣と言いますが、なかなかそこに目標が到達できないのが現状ではないでしょうか。</p> <p>それから 75 ページ、③地域で助けあいのしくみづくりと特性に応じた支援方法の啓発ということで、地域版ハザードマップの作成とあります。これは自治協のほうでも進めてまいりました。ほとんどの地域がこのハザードマップを作って、各戸配付し、その時にここは危険場所ですからこの道を通らないようにしてくださいとお伝えしました。例えば、ブロック塀が倒れかけているところなども全部地域の方たちが何度も何度も歩いてつくりました。本当に値打ちのあるハザードマップです。ですからこれを学校にも貼っています。もし昼間に災害が起こった場合、大いに利用できるものであってほしいと思います。</p> <p>それから救急医療情報セットも福祉課に作っていただきました。今は社協が中心になって広がっていただけていますが、作っただけ、作ったペットボトルを冷蔵庫に入れるだけでは駄目だと思います。更新していかないといけません。その更新も、私たちは敬老の日更新しようということで、地域でいつも話し合っています。</p> <p>例えば、お薬の状況も変わるでしょうし、生活も変わるでしょうし、そういう細かなところまで地域で広がっていかねばならないなということも今後の方向性のところで書いていただいています、もっと展開できるような方向でまとめていただければと思います。</p> <p>それから災害時支援マニュアルの作成というところで、今後の方向性のところに地域の防災学習会などに若い層が参加できるような地域とのネットワークの強化に努めると</p>
-----------	---

あります。昼間、働き手がみんな出ている時に災害が起こったら誰が要支援者の方を避難場所に連れていくのかということがいつも問題になります。私たちの地域には中学校も高校もありますので、そういう方たちの力を借りる連携も謳っていないといけないのではないかなと思います。

それから小地域ネットワークの中に共生型サロンということで、何年か前から助成金をいただいて私たちの地域でもやっているのですが、なかなかそこに来ていただく方も少ないです。まず自分たちのほうからやりだしたことは、施設に行って、一緒にものを作ったり、歌を歌ったり、私たちのほうから出掛けていくような共生型サロンも展開の必要性があるのではないかなと。待っているだけでは駄目だなと思います。私たちも参加させていただきました。

障害者の方と一緒に行動するというのは、やはり災害時が一番問題になるとと思いますので、やはり日常のつながり、こういうところにこういう方がいらっしゃるということもよく知っていく必要があるかなと思います。

先ほど新崎先生もおっしゃいましたが、台風 21 号の時には、避難場所にどれだけの人が避難されているかということを知りたいのですが、どのように避難していただけるか、要支援の方はまず避難場所に行かれますかと全部聞いて歩いたんですね。それは自治会の役員さんみんなで動ける方が分担して行いました。すぐに行きますという方は連れて行っていただいたり、向こうで食事はどうなるんですかとか、いろんな心配ごとがあるんですね。

だから私たち地域の自治会の役員というものはその辺りも常に把握しながら、ご近所を大事に、防災の時は本当にこれから大きな問題になると思います。そういうこともたくさん書いていただいています。私がいつも思うことは、このようなマニュアルができたなら、それにどれだけ近づけるような活動を地域で展開していくのかということを知りたいです。それぞれの地域で話し合っていて頑張っていきたいということです。自分の感想のようになりましたが、よろしくをお願いします。

会長

特に 75 ページの地域版ハザードマップというのは、社協の地域福祉活動計画にもつながることだと思いますが、地域の方々のお力がなければできないことですので、こういったところの大切さを提供していかなければならないというところ。

それから災害時の支援マニュアルの時に高校生、中学生の連携をおっしゃっていただきましたが、それについても学校関係者にご提案して、今、他市では中学校の防災訓練の際に地域の方と交流して、高齢者の方のサポートを中学生が担うという取り組みをやっておられるところもあるようですので、そういったことを先生方にお伝えする。

それから学校での福祉教育もそうですが、地域の方々と共生型サロンというかたちで交流されているところなども広い意味での福祉教育につながると思います。これが東大阪市全体に広がっていくといいなと聞かせていただきました。積極的なご意見ありがと

委員	<p>うございます。</p> <p>避難食、非常食のところでアレルギー対応のことを入れていただいて大変感謝しております。やはりアレルギーを持つ子どもたちにとっては食べ物が一番大きな問題です。しかしながら、全体的な子育て支援がどこにあるのかなど。小学校、中学校との連携、関係はたくさん書かれていますが、就学前の子どもたちのことが少し少ないのかなという感想を持ちました。</p> <p>それからもう一つ、妊婦さんや赤ちゃんについても弱者というとらえ方をしていただけるとよりいいのかなと思います。特に 54 ページのコラムに書かれていますヘルプマークというものがあろうかと思います。これは外部からなかなか見えないところに配慮を抱えた方だということが分かると思いますが、先日も電車の中で妊婦さんのマークの付いたキーホルダーを付けておられる方に若い席が譲っておられました。少しずつ浸透してきているのかなと思います。できればヘルプマークと共に赤ちゃんのことも並記していただけるとありがたいと思っています。</p> <p>それからもう一つ、これは前からずっとお願いしていてなかなか実現しないことですが、82 ページ、認知症の方の SOS オレンジネットワークについてです。これも障害児・者でも使えないかということをお願いをしてきました。というのは、自閉的な傾向を持つ子どもたちの中には興味のあるものについていくことがあります。私の子どもが小学校の2年生、3年生の時に15分休憩の時にいなくなったことがありました。確保されたのは梅田のJR大阪駅でした。連れられて行ったのか、自分で行ったのかは分かりませんが、そういう時には校章だけでは分からなくて、連絡のつけようがなかったということもありました。地域の子どもたちでも急に家を飛び出して、おばさんたちが一所懸命探しておられることもあります。SOS オレンジネットワークは希望者がされることでありますので、活用させていただければ安心につながるのかなと思っています。どうぞそこも併せてお願いいたします。全体的な意見としては以上です。</p>
会長	<p>SOS オレンジネットワークを対象を子どもにも広げていったらどうかというご提案でした。私もシステムはよく分かりませんが、やり方としては希望者を対象にするというかたちで、広げていきやすいかもしれませんね。</p>
委員	<p>安心安全のところで、警察との連携うんぬんという表記があったかと思いますが。それに関しては、メールというかたちで警察から携帯電話へ情報提供されるようになっていきます。また、われわれはジョイフルネットということで、保育園の関係はそれを二次配信していただけていますが、そうしたものの活用も書いていただけると、そういうものもあるんだなと知っていただけたと思います。自転車の前かごのカバーをいつどこで無料配付しますよという情報も入ってきますし、車のナンバープレート盗難防止用ビスは</p>

<p>会長</p>	<p>どこそこの車屋さんで何時から何時まで限定何台で配付しますという情報も入ってきます。今は詐欺の情報やどこそこで検挙されましたという逮捕されたことまでも情報として入ってきますので、そうしたものの連携活用みたいなこともお願いできればと思っています。以上です。</p> <p>インターネットの活用法も日進月歩で動いてきているのですね。そういったところもありますので、この計画の中に書き込んでも古くなってしまいかもしれませんが、そういうこともあるということを日々意識しておかないといけないかなと思います。</p> <p>皆さん方、それぞれの立場からご意見をいただきました。</p>
<p>会長代理</p>	<p>今日まで5回にわたってご意見をいただきましたが、これで終わりというわけではありません。これから走り出して、どのようなかたちになっていくかということが問題だと思います。市のほうもこれで完璧ですよということはないと思います。</p> <p>5回目が済んで、これでスタートして、これから走り出してどうなっていくのかということの中で、皆さん方の組織の中でご意見が出たものが、ここはこのように直さなければいけないのではないかとか、このようにやっつけていかなければいけないのではないかとか、そういうものが自助、共助、公助というかたちの中で生まれてくるのではないかと考えています。市の方には今日までご苦労いただいたということで、感謝を申し上げたいと思います。</p> <p>私は社協の立場から出ておりますので、ここで残念だなと思っていることがあります。67ページ、一般の方の認知度が50パーセントと出ています。各種団体事業にはいろいろな関係がありますので認知度は高いのかなと思ったのですが、それも60パーセントと書いてあります。これは社協としてもちょっとふがないなと感じています。</p> <p>この反省を踏まえながら、社協のほうも皆さんにご協力を願って、もう少し皆さんにPRをしていただかないといけないのかなと思っています。それと同時に49ページの図のように社協の立場というのは、今、計画が走り出したということを書いていましたが、走り出してからはどこにこういうことを言ったらいいのかと。直接市に言うのかといったかたちにもなりますので、この図面からいきますと、社協が窓口になってある程度まとめなければいけないのかなと。走り出したら市や社協のほうに、各種団体のいろいろな意見を聞かせてほしいなと思っています。</p> <p>先ほど申しましたように、他力本願で、うちはこうしているんだけど、みんなこうしてくれないかということではなく、こういうことだから、こういうふうに関心してくれとかたちで下から盛り上げていくようなことも大事ではないかなと思っています。</p> <p>そういうことで、口幅ったいことを申し上げましたが、市長もいつも言っていますが、東大阪を安全で安心なまちにしたいと思っています。住んでよかったとか、住みたいまちやとか、ただ、今の状態ではそれはどうかなと。それには努力してみんながやっ</p>

	<p>ていくというようなことが大事ではないかなと思います。</p> <p>今後はワールドカップもありますし、9月には文化創造館もできますし、大阪も発展します。今度、G20が来るわけですが、今、力を入れて全国から人を集めるよう努力をしています。そんなことで東京に次いで大阪がよくなり、またその中で東大阪がよくなるということを考えていかなければならないのではないかと私は思っています。</p> <p>皆さん方、今後、社協に対しても問題がございましたら、どしどし言っていただければ、できる範囲で努力させていただいて、市とのパイプ役にならせていただきたいと思いますので、一つよろしくをお願いします。</p>
<p>会長</p>	<p>皆さん、本当に5回にわたって熱心なご意見をありがとうございました。ご提案いただきましたすべての思いを盛り込むことはできませんでしたが、足りない部分については継続的に点検しながら改善してまいります。</p> <p>最後に委員のほうから、今、子どもを産み育てることがなかなか難しいという状況の中で、子どもさん、妊婦の方々についての記述が少なかつたのではないかというご意見をいただき、なるほどと思いながら聞かせていただきました。</p> <p>委員もお話しされましたが、この計画ができたことが終わりではなく、これからの5年間をどうしていくかがとても大切になってくると思います。それと同時に今、策定中の地域福祉活動計画、いわゆる住民の方々や施設、地域の方々がどういう行動をしていくか、活動していくか、それをどんなふうに社協や行政が支えていくかという地域福祉活動計画もまだ途中ということですので、この計画を生きたものにするように、またこれから皆さんのお力をお借りしながらやっていければと思います。</p> <p>今のご意見を全部聞かせていただいて、ここは修正すべきとか、これは変更が必要だというような強いご意見はなかったように思いますが、もしそういったことがあれば、軽微なものについては書き加えたいと思います。今日のご提案で事務局の方も可能であればブラッシュアップしていただく努力をしていただければと思います。</p> <p>ということで、この合同会議がこれで最後ということで、ご承認いただいてよろしいでしょうか。</p>
<p>一同</p>	<p>異議なし。</p>
<p>会長</p>	<p>ご承認いただきました。今いただいたところで、文言を少し書き加えるということについては、私会長と事務局の調整によって責任を持って反映させていただくということでご一任いただいてよろしいでしょうか。</p>
<p>一同</p>	<p>異議なし。</p>

会長	ありがとうございます。それでは議事は滞りなく済んだと思いますので、事務局にバトンタッチしたいと思います。よろしくお願いします。
会長	ありがとうございました。お疲れさまでした。 (終了)